



戦争と平和について知る・考える・行動する

校長 吉満 ふくみ

7月21日から始まった夏休みでしたが、早くも1か月が過ぎました。今のところ、大きな事故や怪我等もなく、出校日や行事等では子供たちの元気な顔を見ることができて、とても嬉しく思います。子供たちが充実した夏休みを過ごせられているのも、御家庭や地域の方々の御支援・御協力があるからこそです。皆様に感謝申し上げます。

今年は、前年よりも更に酷暑が続き、迷走台風にも惑わされました。23日は二十四節気の処暑ですが、まだまだ暑さは続きそうですので、皆様どうぞ御自愛くださいませ。

さて、8月といえば、日本人として忘れてはならない日が巡ってきます。8月1日の出校日には、全校朝会で戦争と平和についての話をしました。(以下は、その内容です。)



学校では、今年もたくさんのひまわりが咲き誇りました。

8月6日は広島に、8月9日は長崎に、原子爆弾が落とされた日です。日本は今から78年前まで、いろいろな国と戦争をしていましたが、広島県と長崎県には原子爆弾という非常に恐ろしい爆弾が落とされて、多くの方が亡くなりました。8月15日は終戦記念日ですから、8月は日本中が平和への祈りに包まれます。

みなさんが使っている国語の教科書には、戦争の話がいくつか出てきます。3年生には「ちいちゃんのかげおくり」、4年生には「一つの花」、5年生には「たずねびと」というお話です。5・6年生の中には、「あー、あのお話だ。」とすぐに挿絵まで含めて思い出した人がいるでしょう。「一つの花」のお話は、校長先生が小学校の頃にも教科書に載っていたお話で、小学生だった校長先生は、当時お父さんに頼み込んで、教科書よりも更に味わい深い挿絵が載っていた絵本を買ってもらい、何度も読んだものです。その時の絵本は、何回も引っ越しする中でも、捨てることなく大切に家に持っていて、自分の子供にも読むのを勧めていたところでした。

今でも、世界中ではあちこちで争いごとや戦争をしています。戦争は、すべての人たちの大切なものを奪い取ってしまう最大の人権侵害です。なぜ、人は争いをやめないのでしょうか。平和に安心して暮らすには、どうしたらよいのでしょうか。今の皆さんにできることは何でしょうか。

まずは、みなさんどうですか。いつも自分を大切に、そして友だちや家族を大切にしていますか。まずは、校長先生がいつも話している、自分や周りの人を大切にする、それが平和の始まりだと思います。お互いのことを分かり合い、違いを理解しようとし認め合うことです。「違うって素敵だね。」とそのことで人を好きになり、違いを豊かさに変えていくことは、子供の皆さんにもできることですよ。そして、家に帰ったら、ぜひ家族やおばあちゃん、おじいちゃん、ひいばあちゃん、ひいじいちゃん、親戚の人などと、戦争や平和のことについて話をしてみてください。そして、夏休みだからこそ、戦争や平和について考える「いい本」やテレビ番組、映画、アニメなどに触れて、自分ができるところを実行してほしいです。

平和への祈りは、当たり前にも思っているこの日々の生活の中で、まずは「ありがとう。」と誰に対しても同じように感謝したり、生き抜いてこの日本を守ってきた先祖に感謝したりすることから始まりそうですね。

【8月は鹿児島県人権同和問題啓発強調月間】

部落差別(同和問題)をはじめとする人権問題を解決するためには、県民に人権尊重の理念が普及し、その理解を深めていくことが重要です。全ての人の人権が尊重される社会づくりのために、「まずは自ら」できることを探して実行していきましょう。

